

# 2026年日本アイソトープ協会奨励賞 受賞者及び授賞理由、選考委員名簿

(五十音順, 所属は受賞時)



名古屋大学大学院  
理学研究科

**奥平 琢也 氏**



九州大学大学院  
医学研究院

**酒井 真理 氏**



神戸薬科大学  
薬品物理化学研究室

**山崎 俊栄 氏**

## 受賞者

名古屋大学 大学院 理学研究科

助教 奥平 琢也 氏 (生年: 1991年)

## 研究業績名

偏極<sup>3</sup>Heガスを用いた中性子ビーム偏極技術の開発と素粒子・原子核分野を中心とした応用研究の展開

## 授賞理由

奥平琢也氏は、スピン偏極中性子を用いたCP対称性の破れの探索を研究目的として、<sup>3</sup>Heを用いた高効率スピフィルターの開発に成功した。同氏はこの装置を用いて、J-PARCのANNRI施設において、中性子スピンの向きによって<sup>139</sup>Laの中性子捕獲断面積に差が生じることを世界で初めて測定した。さらに、低温偏極ターゲットを用いた実験にも成功し、<sup>139</sup>Laの中性子吸収反応ではCP対称性の破れが極めて大きく増幅されうることが明らかになった。これらの成果は、基礎物理学において極めて重要であると同時に、同氏が開発した偏極中性子技術により、物質科学および生命科学分野への新展開が期待できる。以上の理由から、同氏の研究はアイソトープ・放射線利用の拡大および発展に多大な貢献を果たすものであり、本奨励賞に相応しいと判断した。

## 受賞者

九州大学大学院 医学研究院 保健学部門 医用量子線科学分野

講師 酒井 真理 氏 (生年: 1983年)

## 研究業績名

粒子線治療におけるソフトウェアリスクの評価

## 授賞理由

酒井真理氏は、粒子線治療で発生する中性子など二次粒子によるペースメーカー等のソフトウェアに着目し、小型検出器を開発して医療現場での実測と多施設比較を可能にする独創的研究を展開した。中性子の高エネルギー成分の重要性や照射条件によるリスク変動を明らかにし、影響回避の方法論まで提示するなど社会実装へ向けた完成度が高い。粒子線、中性子は宇宙での半導体機器ソフトウェアにおいても重要な課題であり、医療から宇宙利用まで応用と発展が期待される成果である。以上より、同氏の研究は外照射治療における放射線の安全利用および宇宙放射線の影響評価の拡大発展に多大な貢献をするものであり、本奨励賞に相応しいと判断した。

**受賞者** 神戸薬科大学 薬品物理化学研究室  
講師 山崎 俊栄 氏 (生年：1985年)

**研究業績名** 炭素ラジカル反応性化合物を基盤とする生体内脂質ラジカル検出放射性プローブの開発

**授賞理由** 山崎俊栄氏は、ニトロキシドが炭素ラジカルに選択的に反応する特性に着目し、生体内脂質ラジカルを検出する放射性プローブを開発した。特に、ニトロキシド骨格の置換基効果を利用した反応性制御という独自の手法によりプローブを設計・合成し、モデルマウスにおいてその高感度検出を実証するなど、優れた成果を挙げている。脂質過酸化は酸化ストレスにより生じる生体反応機構であり、本研究は脳梗塞、神経変性疾患、がんなどの病態解明や診断・治療戦略の高度化に寄与することが期待される。  
以上より、同氏の研究はRIを利用した放射性薬剤の開発・核医学診断分野の発展に大きく貢献するものであり、本奨励賞に相応しいと判断した。

---

## 2026年日本アイソトープ協会奨励賞候補者選考委員会

委員長	：	坂下 哲哉	量子科学技術研究開発機構 高崎量子技術基盤研究所
副委員長	：	阿部 光一郎	東京医科大学 放射線医学分野
委員	：	久下 裕司	北海道大学 アイソトープ総合センター
		柴田 理尋	名古屋大学 アイソトープ総合センター
		廣田 昌大	信州大学 基盤研究支援センター R I 実験支援部門
		間賀田 泰寛	浜松医科大学 光医学総合研究所
		山本 誠一	早稲田大学 理工学術院総合研究所

(計7名、所属は授賞時)